

中間台木を利用し、カキ「秋王」の樹当たり果実数を増やす技術を開発

背景

カキ「秋王」は樹勢が強いため、果実が結実しにくく生産量が安定しないことが課題でした。

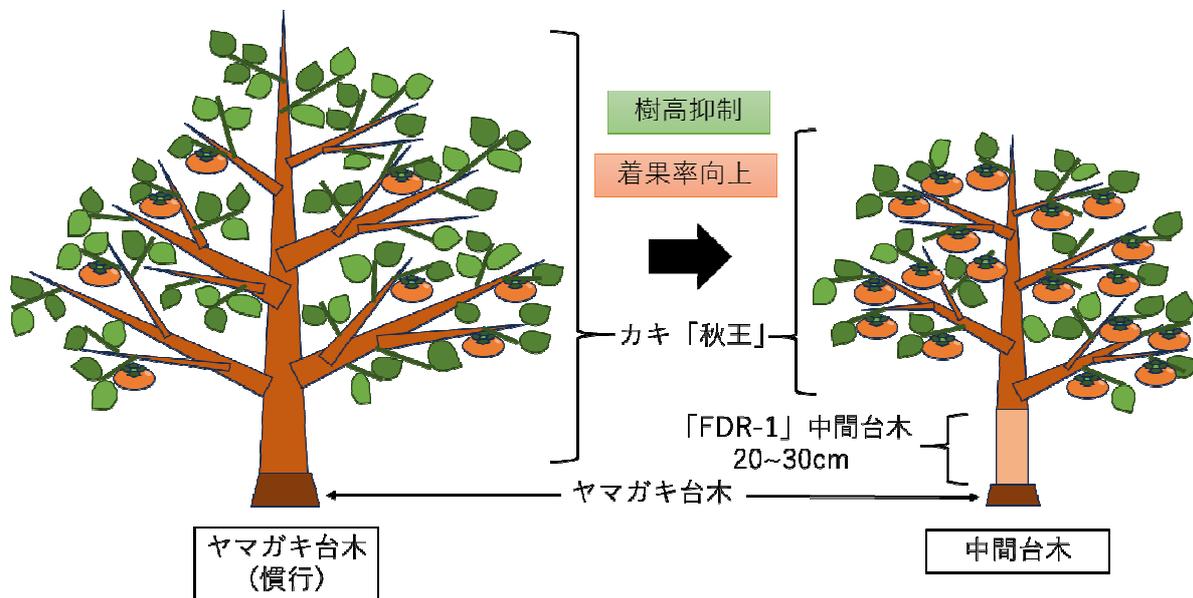
成果の内容

「秋王」の中間台木として、わい性台木の「FDR-1」を利用することで、樹がコンパクトになるとともに、樹当たり果実数が増加することを明らかにしました。

	樹高(m)	樹当たり果実数(個)
「FDR-1」中間台木	2.28	18.6
ヤマガキ台木(慣行)	2.90	7.6

令和5年 4年生樹の比較 苗木・花き部調査

樹がコンパクトになり、「秋王」の果実数が増える中間台木技術



【研究者のコメント】

○「秋王」が作りやすくなることで栽培面積や生産量が増え、生産者や消費者に喜んでもらえれば幸いです。

(苗木・花き部 苗木チーム)